[総合的な学習の時間]

探究的な学習で，一人一人のキャリア発達を促す総合的な学習の時間の取組

－３年間の系統的，発展的，探究的なカリキュラムの作成を通して－

齋藤　忠之*

1　はじめに

本校での勤務は４年目を迎えた。着任当初に気付いたことの１つとして，総合的な学習の時間において，学校全体が共通して解決すべき課題やねらいが明確でないことがあった。また，総合的な学習の時間が学校行事に費やされており，１学年では自然教室，２学年では修学旅行が中心となって計画されていたこと，３学年では進路学習が中心となっていたことなど，３年間を見通して育てたい力がはっきりしていないという現状があった。

総合的な学習の時間は，「行事ありき」の学習に陥りやすい。学校行事に関連した活動が，総合的な学習の時間の大半を占めている状況では「本来のねらいを達成していないのではないか」という視点に立ち，平成20年度から自ら中心となり，改善のための総合プロジェクトチームを発足させた。本論文は平成19年度から平成22年度にかけて，筆者自身が総合的な学習の時間の主任として,各学年の担当者（以下，総合担当）と共に取り組んだ内容をまとめたものである。

2　本校における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

本校は，地域や保護者の協力を得ることで，教育活動全体を通して一様によい評価を得ている。しかし，総合的な学習の時間については，改善の余地が大きい。学年ごとに学習内容が完結しており，身に付けた学習技能や養った能力を次年度につなげるという視点や，学習活動に系統性・発展性をもたせてスパイラルに学習を計画するという視点に欠けていた。また，毎週２時間の学習内容が年間指導計画に沿っておらず各学年の総合担当に任されていた。各学年部が総合的な学習の時間を場当たり的に運営してきたことが，成果を次年度に生かさていなかった要因と考える。

これらのことから，本校の総合的な学習の時間の問題点は，次の３点であることが明らかとなった。

(1)　年間指導計画に実効性がなく，毎週２時間の学習内容が，学年裁量となっていた。
(2)　３年間の年間指導計画や学習内容に関連性・発展性がなく，次の学年に何をするのか見通しがなかった。
(3)　評価方法が曖昧で，どのように生徒の活動を見取り，評価するかについての共通理解が図られていなかった。

これらの問題点の解決を目指すため，総合プロジェクトチームの主任として以下のような取組を行った。

3　研究の方法

(1)　年間指導計画の改善について

①　学習内容の精選

まず，平成19年度に各学年が実際に行った総合的な学習の時間の学習内容を一覧にまとめた。本校の中学３年間の学習状況を分析するためである。分析の結果，これまでの学習内容には総合的な学習の時間として行うべき学習内容と，本来であれば学級活動や学校行事として行うべき内容が含まれていることが分かった。そのため，総合プロジェクトチームでは各学年部の意見や要望を集約しながら学習内容の見直しを図り，新たに平成20年度の年間指導計画を作成した（図１）。この取組は平成21年度以降も継続し，１年ごとに年間指導計画の更新を続けている。

＊ 長岡市立東北中学校

画

第３学年 年ごとの学習内容（身につけたい力）	他の教育活動との関連	時数
		0h
グランドデザイン説明会（学校生活に自主的に取り組む意欲） 1h	（各学年）	1h
学年別総合ガイダンス 学習に主体的に取り組む意欲） 1h		1h
キャリア教育ジャンプラン（夢の進路実現） 26h		6h
私たちの将来の希望（学習に自主的に取り組む力） 2h	学活：パスカル適正検査	1h
働く人々のすがた（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
働く人々の仕事と考え（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
人はなぜ働くのか（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
なりたい職業に就くためには（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
職業マイプラン作成（表現する能力，自己の生活に生かす力） 2h	国語：依頼文の書き方 電話のかけ方	2h
進路学習ガイダンス（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
先輩への質問状（実行力，他と関わる力） 2h		2h
親と子の進路教室（情報を正しく活用する能力） 4h	学活：進路指導	2h
マイプラン探求活動①（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
マイプラン探求活動②（課題設定能力，情報収集能力） 2h	技術家庭：情報収集力，情報活用能力	18h
マイプラン探求活動③（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
マイプラン探求活動④（課題設定能力，情報収集能力） 2h		2h
		1h
私たちの町づくり（地域貢献活動） 20h		6h
お年寄りの住みやすい町（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
お年寄り疑似体験（他者との交流，他と関わる力） 2h		2h

第２学年 学年ごとの学習内容（身につけたい力）	他の教育活動との関連	時数
		0h
グランドデザイン説明会（学校生活に自主的に取り組む意欲） 1h	（各学年）	1h
学年別総合ガイダンス 学習に主体的に取り組む意欲） 1h		1h
キャリア教育ステップラン（職場体験３日間） 14h		6h
職場体験ガイダンス（働く活力，勤労観の育成） 2h		1h
礼儀・マナー（表現力，実行力） 2h	国語：依頼文の書き方 電話のかけ方	2h
手紙の書き方（表現力，計画力） 2h		2h
職業調べ（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
職業講話（広い視野，勤労意欲） 2h	学活：パスカル適正検査	2h
職業調べ（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
課題追究①（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
課題追究②（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
課題追究③（学習に自主的に取り組む力） 2h		2h
レポートまとめ（活動内容をまとめる力，表現力） 2h	技術家庭：情報収集力，情報活用能力	0h
職場体験・事後レポート（実行力，他と関わる力） 18h		0h
発表会，評価（発表力，表現力，聞く力） 2h		0h
課題追究④（学習に自主的に取り組む力） 2h		0h
		1h
私たちの学校づくり（PR表現活動） 26h		6h
東北中学校について知ろう（学習に主体的に取り組む力） 2h		0h
課題への探求活動①（課題設定能力，情報収集能力） 2h		0h

（図１）新たに作成した総合的な学習の時間の年間指導計画の一部

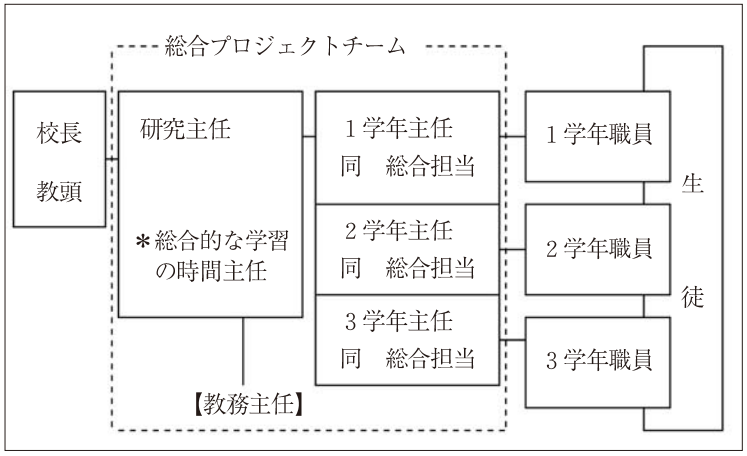
② 総合的な学習の時間のまとめ取りの実施

本校では週の時間割を固定にせず，１週間単位で作成している。この方法によって可能となったのは，総合的な学習の時間のまとめ取りである。各学年の実態に合わせ，ある特定の時期に集中し，総合的な学習の時間の授業をまとめて行うことが可能となった。その結果，連続した一定の時期に集中し，生徒の学習意欲を高めたまま，焦点化して学習活動に取り組めるようになった。また，これまでは毎週２時間の総合的な学習の時間が，むしろ総合担当の負担となっていることがあった。まとめ取りすることによって，どの学年も学習活動の計画・準備・実行・振り返りに充分な時間を確保できるようになり，より充実した学習活動を展開できるようになった。

⑵ 学年間の年間指導計画の関連性・発展性について

① 総合プロジェクトチームの立ち上げと学年の枠を越えた連携体制づくり

自ら校務分掌の見直しを働きかけ，学年の枠を越えた総合プロジェクトチームを立ち上げた（図２）。学年間の連携を強化し，総合的な学習の時間の本来の在り方を探ることを目的としている。また，生徒や学校，地域の実態に即した様々な提案も行っている。まずは，職員が一体となって協力できる体制づくりと，職員間のコミュニケーションの促進を第一としており，総合的な学習の時間に関する情報交換を活発に行っている。



（図２）総合プロジェクトチームと学校組織

② 全学年での学習スキル習得の実施

探究的な学びを推し進めるためには，様々な学習スキルの習得が重要である。そこで，平成22年度は４月に集中させ，全学年で学習スキルの習得に取り組んだ。「インターネットの利用・引用の方法と著作権」「図書室資料の活用と分析の方法」「電話連絡，アポイントの取り方」「情報の整理，グラフ化の仕方」「効果的な

発表，まとめの仕方」など，今後の学習に役立つ要素に絞り，各教科とも連携させながら実施した。学習スキル習得を積み重ねることで，学年を追うごとに，生徒の課題に沿った学習活動を円滑に進めることができるようになってきている。

③　キャリア教育を柱として，学習内容に系統性を持たせる取組

今日の産業・経済・雇用の構造的変化にともない，学校生活から職業生活への円滑な移行が厳しい状況がある。また，若年無業者等が増加している。[2] この背景には，働くことへの関心・意欲の低さ，目的意識・責任感・基本的マナー等の欠如，未熟な対人関係能力などが指摘されている。[4] これらの課題を克服し，子どもたち自身が，自己のよさや可能性に気づき，夢や希望をもち，その実現に向けて努力していくことができるよう，早期段階から発達段階に応じたキャリア教育の推進が求められている。[5] そのため，本校ではキャリア教育を大きな柱として，各学年の学習内容に系統性をもたせるように編成し直した。学年が上がるにつれて，前年度の学習を生かし，学習活動に系統性と発展性をもたせながら，展開していく構想である（図３）。また，それぞれの学習活動の連携を図り，学習活動そのものが，次年度に行われる学習活動の事前学習であり，前年度まで行ってきた学習活動の事後学習となるように，一連のカリキュラムを工夫し年間指導計画及び単元計画の見直し，改善を行った。

1学年	地域貢献活動［私たちの町づくり］	【環境に優しい町づくり】 ・自然，環境に優しい町づくりを考える。 ・ゴミ処理の実態を知り，自分たちにできるきれいな町づくりを実践・提案。	キャリア教育［私たちの夢づくり］	【キャリアホップラン】 ・作業，勤労体験を行う。 ・働くことの意義を知る。 ・様々な業種の仕事が存在することを知る。	地域ＰＲ活動［私たちの学校づくり］	【小学校へＰＲ】 ・中学校生活を分かりやすくまとめ，小学校に届ける。 ・調べた内容やまとめた資料をもとに，生徒主体に入学説明会を実施する。
2学年		【安全な町づくり】 ・学区の危険な場所などを調べ，安全マップを作成。 ・中越震災の経験を踏まえ，災害時に生かせる情報マップを自分たちの手で作成。		【キャリアステップラン】 ・職場体験（連続３日間） ・様々な業種の仕事について調べる。 ・働く上で必要な資質や能力を知る。		【地域へＰＲ】 ・東北中学校の歴史，行事，特色などを調べ，ＰＲ広報誌にまとめ，各分団で配付する。
3学年		【福祉の町づくり】 ・お年寄りが暮らしやすい町づくりのため，自分たちができることを考える。		【キャリアジャンプラン】 ・自身が興味ある事業所や大学，専門学校等を訪問。 ・希望の職業に就職するまでのマイプランを作成。		【世界へＰＲ】 ・長岡市のよさや問題点を調べ「中学から発信，長岡市へ提言」など，学習の成果を広くWeb上に発信する。

（図３）キャリア教育を柱とした系統性・発展性のある取組（構造図）

キャリア教育では，１学年をホップラン（ホップ＋プラン），２学年をステップラン（ステップ＋プラン），３学年をジャンプラン（ジャンプ＋プラン）と名称し，前年度の活動内容を発展・深化させながら学習を進めることを職員全体で周知した。各学年の具体的な学習活動を編成する際も，学年間の系統性と発展性を意識させている。こうすることで，卒業までに付けたい力とその道筋を職員にも生徒にも示すことができた。

④　学年ごとの資料の蓄積と引き継ぎ

学年ごとに使用したプリントや資料（見学申請，派遣申請，依頼状，礼状などを含む）をファイリングし，次年度の担当者に引き継ぐようにしている。教務室内に定位置を決め，必要に応じて誰でも自由に閲覧できるようにした（図４）。電話メモや学習プリントなど全て綴じ込み，学びの履歴も含めて活用できるようにした。また，生徒自身も３年間通して使用できるファイルを準備し，生徒自身の学びの蓄積と振り返りを進めている。

（図４）教務室内に設置した学年ごとの総合ファイル

(3) 総合的な学習の時間の評価について

① 生徒の活動の見取りの工夫と評価方法の改善

評価方法についてはこれまで通り学年任せにするのではなく，総合プロジェクトチームで，具体的な評価の観点や規準を検討し，全学年共通の明確な評価規準を作成した（表１）。通知表における評価の観点や文書記述の仕方についても，具体的な例を職員に示すことで，生徒一人一人の変容を共通の評価規準で行えるようにした。

（表１）「総合的な学習の時間　評価規準表」の一部

観点／学年		関心・意欲・態度	“学び方の上達	
			課題設定能力（つかむ）	情報収集能力（集める）
期待する力		○学習に自主的に参加する力 ○学習に粘り強く取り組む力	○課題発見力 ○課題選択力 ○広い視野 ○自分なりのこだわり ○他への関心	○まとめ力 を上大する力 ○情報を抽象化する力 ○情報処理力
3年生	**【キャリア教育ジャンプラン】** **夢の実現に向けた進路指導**	・学習活動に興味・関心をもって自主的に参加することができる。 ・学習に粘り強く取り組むことができる。	・夢の進路実現に向けて，興味ある職業について自主的に調べることができる。 ・調査のテーマを自分の力で設定できる。 ・調査箇所を選択できる。	・既習の方法の中から適切なものを選択し，解決方法について考えを深めていくことができる。 ・見学やインタビュー，
	【地域貢献活動】 **お年寄りが暮らしやすい町づくり**			
	【表現力育成，ＰＲ活動】			

② 付けたい力の明確化

評価規準を総合的な学習の時間の年間指導計画の中に明記した。評価規準や付けたい力を年度当初から明確に示すことで，職員間でも意識して，学習活動を進められるようになってきている。また，生徒にも分かりやすい表現で具体的な目指す姿を明示したことで，自分自身の学びの成果が実感できるようになってきている。（表２）

（表２）東北中学校の生徒に身に付けさせたい力と学習の流れ図

step１：課題設定能力　（つかむ）…「実際の学習対象と関わり，課題を設定し，課題意識をもつ。」
↓
step２：情報収集能力　（集める）…「実物を見る，調べる，体験するなどしながら広く情報を集める。」
↓
step３：課題追究能力　（究める）…「情報を収集し，整理・分析しながら課題を追究する。」
↓
step４：表現する能力（まとめる）…「自分の言葉で説明するなど，結果をまとめ・表現する。」
↓
step５：自己の生活に生かす力　…「自己の成長や生き方に結び付けて考えることができる。」

繰り返し学習し、スパイラルに高まっていく。

我が国の各種調査結果や国際的な学力調査などから明かなこととして，基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定の成果が認められるものの，思考力・判断力・表現力に課題が残る。[1] これは，本校についても同様である。そこで，総合的な学習の時間において，重点的に身に付けさせたい力を次の２点とした。[step３．課題追究能力］と［step５．自己の生活に生かす力］である（表２）。[step３．課題追究能力］とは，課題に対する問題意識や設定した課題をもとに，調査，探索，観察，実験，追体験などの追究活動を行う力ととらえている。それとともに，学習活動によって収集した情報を整理したり，分析したりして思考活動へと高め，思考力・判断力を身に付けていくことができる。また，[step５．自己の生活に生かす力］とは，総合的な学習の成果を，自己の生活に生かし，自分づくりを行う段階

で発揮される力である。自己の生活に生かすことが，真の意味での表現力と捉え，この２点の力を重点的に育成することを，全学年共通の課題として設定した。

探究的な学習は，前述した［step１］～［step４］を繰り返すことで行われると言われている。しかし，いつも順序よく繰り返されるわけではなく，順序が前後することや複数の［step］が一体化して同時に行われることもある。何度も繰り返され，スパイラルに高まっていくのが探究的な学習の特徴といえる。[3] 各学年の活動が探究化し，「課題設定」「情報収集」「課題追究」「表現」「自己の生活に生かす」という一連のサイクルを一単元の中でスパイラルに繰り返すことで，学習活動がより探究的な活動になってきている。

４　学年の総合担当としての取組（第３学年「キャリア教育ジャンプラン」の実践）

⑴　単元の基本的な考え方

これまでの学習ではキャリア教育として１学年，２学年と積み重ねてきた学びが，３学年で十分に生かせなかった。「看護師になりたい」「先生になりたい」といった自分の将来の夢を語る生徒がいる反面，「入れる高校・入りたい高校」に目がいく生徒も多い。10年先の自分の姿を思い描き，今必要な資質や能力について考え，将来の職業を実現させるための進路選択に目を向けてもらいたいと考えている。本単元のねらいは，未来の自分に出会うための「人生設計図」を作成する過程において，「今を精一杯生きることの大切さ」に気づかせることと考えている。

⑵　実際の取組

①　「人生設計図（マイプラン）」の作成

各自が希望の職業に就くまでの「人生設計図（マイプラン）」を作成した。一人一人が「将来の夢」「志望校」「興味があること」の３つのテーマをもとに，自分探しの計画書づくりに取り組んだ。その中で，希望の進路に向けて，自分がどのような道筋を歩いて行けば良いかを考えていく動機付けとなった。

②　こだわりをもって働いている方々との出会い

Ａさん	Ｂさん	Ｃさん
・一級建築士，宅地建物取引主任，大工指導員として活躍。個人での成功体験を中学生に教えていただく。	・新潟日報長岡支社に勤務。新聞記者の視点で職業や記事へのこだわりを教わる。	・准看護師，ケアマネージャー，ホームヘルパー１級。ボランティアに身を捧げる大人の考えを聞く。

これからの人生を生徒が考えていくためには，今現在の職業にこだわりを持ち，生き生きと働いている人々に会うことが有効だと考える。生徒への事前アンケートによる希望を参考に，異なる分野の職業人を学校に招いた。生徒自身は，自分たちの将来と重ね合わせ，興味をもって話を伺うことができた。下はＡさんのお話を聞いた後の，生徒の感想である。

> 僕はＡさんが中学を卒業してすぐに仕事に就いたことにびっくりしました。またお話を聞いて，一級建築士の資格を取るために３回もチャレンジしていて，あきらめずに挑戦していくことの大切さを学びました。僕はまだ夢がはっきりとしていませんが，Ａさんのように努力を積み重ねていき，とにかく色んなことに挑戦して将来に備えたいと思いました。これからも人一倍勉強していきたいです。　（生徒感想：Ｄ男）

３人それぞれにタイプは違うが，精一杯仕事に励み今を大切に生きている。生徒は人生の先輩から様々な話を聞き，さらに自分の希望する職業について探究していく活動への意欲付けとなった。

③　大学，専門学校への体験入学の実施

本校の近くにある上級学校（大学３校，専門学校４校）に訪問した。高校卒業後の進路を考え，なりたい職業と入りたい高校との間のギャップを埋める有意義な活動となった。生徒からも「私も高校を卒業したら，この専門学校にいきたい。」「具体的な職業への道筋が見えてきた。」などの感想を数多く聞くことができた。

④　プロフェッショナルへの質問状

様々な職業を具体的に探究する中，生徒から「職業についてもっと色んな人から話を聞きたい」「あの人みたいな生き方をしてみたい」という声があがった。そこでプロスポーツ選手や警察署長，全国チェーンのコンビニエンスストア

社長といった様々な分野の第一線で輝いている方々に手紙を出す活動に取り組んだ。これにより，より一層職業への探究が進んだ。様々な質問に答えてもらいたい一心で，生徒は手紙の文面や質問事項を熱心に考えていた。

⑶ 第３学年「キャリア教育 ジャンプラン」実践の成果

１学年では職場訪問，２学年では職場体験と職業に関する学びを積み重ねてきた。３学年では義務教育の最終段階として，その学びを自分自身の生き方に生かす視点が重要である。その意味でも総合的な学習の時間の内容を一新し，より自分自身の将来を見据えたキャリア教育になったと考えられる。また，探究する学習という視点では，様々な職業のプロフェッショナルへ手紙を書くことができた。これは，１つの職業を追求した結果，学校の枠を越えて，外部への働きかけにつながった。この点からも，今まで以上に発展・深化した取組であったと考えられる。

5　成果と課題

キャリア教育を軸に，各学年の学習内容に系統性をもたせたことで，学年の枠を越えて，職員の打ち合わせをする機会が大幅に増えた。また，生徒自身は明確な課題をもって職場体験に臨むことができ，成果が上がっている。しかし，我々教師自身の課題として，職場体験そのものがキャリア教育の中心としてとらえていないかを問い直す必要がある。やはり，キャリア教育としての３年間の学習が，卒業後の自分たちの進路に生きることを中学１年の段階から強く意識させることが重要である。意識をもたせることで，各学年での活動をより一層深めることができる。そして，学年が上がるにつれて，前年度の学習が生き，系統性・発展性をもたせた指導計画がより一層効果的に働くと考えられる。

次に，それぞれの学習活動が探究的に進められるよう「課題設定，情報収集，課題追究，表現，自己の生活に生かす」という一連のサイクルが繰り返される学習にしたことで，生徒同士の意見交換がより活発になったことが成果として挙げられる（表３参照）。探究的な学習は，他の生徒との協同的な活動の中で深まる。教師も意図的に，生徒の話し合いを主にして学習活動を進めるようになってきた。学級やグループ単位で行動し，地域の方々から多くの意見を聞き，他者と協同して学習活動を行うことで，多くの情報を収集することができた。また，異なる視点から物事を検討することで，課題追究の場面でも学習を深めることができた。生徒同士が力を合わせたり，地域の方と交流したりすることで，より質の高い学習活動が行うことができたと考える。

探究的な学習活動を推し進めるためには，学校だけでは限界がある。今後の課題として，教師間及び校外の学校支援者とのコミュニケーションを密にすると共に，内部での連携と外部の人材の活用の両面から組織を整備すること，そしてその幅広い教育力の活用を図ることの３点があげられる。今後も実践を積み重ねていきたい。

（表３）「総合的な学習の時間」中間アンケート結果より（一部抜粋）

Ｑ１．先生方で総合的な学習の時間について話す機会が増えたと思う。	そう思う 89.2％	思わない　10.8％
Q15. 生徒間で意見を交換しあう機会が増えたと思う。	そう思う 67.8％	思わない　32.2％

引用，参考にした資料・文献

１）浅沼　茂，『「探究型」学習をどう進めるか』，教育開発研究所，2008
２）国立教育政策研究所生徒指導センター，『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究』，2002
３）田村　学，『リニューアル総合的な学習の時間』，北大路書房，2009
４）文部科学省，『キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』，2004
５）文部科学省，『キャリア教育推進に向けて』，2005